

令和元年度 生活・自立支援キャンプ
「チャレンジあいよ夢ジュニア」
～新緑の春山を歩く～



チャレンジあいよ夢ジュニア（趣旨）

豊かな自然の中での様々な体験や冒険的プログラムに挑戦してたくましい心と体を育成し、参加者間の交流を深めるとともに、集団生活の中で規則正しい生活習慣を身につける。

1. ねらい

新緑の曽爾高原を舞台に豊かな自然の中で、様々な体験を通して、大自然の素晴らしさに気づき、参加者間の交流を深めるとともに、集団生活の中で規則正しい生活習慣を身につける。

- あいさつをしよう
- いろんなことにチャレンジしよう
- よく寝て、よく食べよう

2. 実施日

5月3日（金）～5月5日（日）2泊3日

3. 対象者（参加施設）

奈良県内の児童養護施設入所児童
（5施設／奈良県内児童養護施設6施設）

4. 参加者

51名（職員12名）

- 1年生3名、2年生1名、3年生3名、
- 4年生9名、5年生12名、6年生11名

5. プログラム（要約）

本事業は、奈良県内の児童養護施設に入所する児童を対象に、「春」の豊かな自然環境の中、登山や野外炊事など、様々な自然体験活動を行うとともに、集団宿泊体験や規則正しい生活習慣を身につけるプログラムを実施した。また、施設間交流を図るため、施設の壁を取り払った異年齢のグループを編成し、仲間作りやコミュニケーションの充実を図った。さらに、就寝や食事については自施設の仲間と過ごし、子どもが安心して過ごせる時間を確保した。

【5月3日（金）】

アイスブレイク
フィールドアスレチック・カプラ

【5月4日（土）】

春山登山（俱留尊山）
ふりかえり、自己紹介ゲーム
「あいよ」プログラム、ドッジボール・ドッジビー

【5月5日（日）】

野外炊事（ビーフカレー）

【1日目：5月3日（金）】



開会式後、アイスブレイクを行い参加者同士の交流を図った。初めは緊張していた子どもたちも、交流ゲームを通して徐々に笑顔があふれ、他施設の仲間との関わりも増えていった。その後、フィールドアスレチック、夕食後にカプラを行いながら、さらに仲間との交流を深めた。

【2日目：5月4日（土）】



メインの活動でもある「登山」は低学年の多い施設を先頭に俱留尊山を目指した。互いに励まし合い、声をかけ合いながら、全員元気に登頂できた。下山後、ふりかえりや自己紹介ゲーム等交流を深めた。夜の「あいよプログラム」は、話し合いで活動内容を決めて、ドッジボール・ドッジビーを楽しんだ。大人チーム対子どもチームで対戦して、子どもたちは「大人チームを倒すぞ!」と一致団結した。

【3日目：5月5日（日）】



最終日の朝、部屋の掃除等を行い、昼食作りは、野外炊事で、各施設協力しながら「ビーフカレー」を作った。「やったあ!火がついた!」「むっちゃおいしいカレーができた!」など、普段とは違う環境や生活、関わりの中で、それぞれに楽しみながら、活動することができた。

6. まとめ

登山、野外炊事などの自然体験や自然の家での生活体験を通して、自然の素晴らしさやチャレンジすることの楽しさ、仲間と助け合うことの喜びを一人ひとりが感じることでできた3日間となった。参加者からも「みんなと仲良くできた」「友達がふえた」「また、山にのぼりたい」など喜びや達成感を感じられた感想が多く聞かれた。

（主任企画指導専門職 田中 耕司）

令和元年度 生活・自立支援キャンプ 「曽爾わくわくキャンプ」



曽爾わくわくキャンプ(趣旨)

豊かな自然の中での様々な体験や冒険的プログラムに挑戦してたくましい心と体を育成し、参加者間の交流を深めるとともに、集団生活の中で規則正しい生活習慣を身につける。

2. ねらい

秋の曽爾高原を舞台に豊かな自然の中で、様々な体験を通して、大自然の素晴らしさに気づき、参加者間の交流を深めるとともに、集団生活の中で規則正しい生活習慣を身につける。

- あいさつをしよう
- いろんなことにチャレンジしよう
- よく寝て、よく食べよう

2. 実施日

10月19日(土)～10月20日(日) 1泊2日

3. 対象者(参加施設)

聖マッセヤ子供の家

4. 参加者 / 募集定員

21人 / 30人

- 小学生6人(2年生1人、3年生1人、4年生1人、5年生2人、6年生1人)
- 中学生13人(1年生4人、2年生5人、3年生4名)
- 高校生2人(1年生2人)

5. プログラム(要約)

本事業は、昨年度に引き続き、津市の児童養護施設に入所する児童・生徒を対象に、高原のすずきが見頃を迎える「秋」の自然の中、フィールドアスレチックや野外炊事など、様々な自然体験活動を行うとともに、施設とは異なる環境の中での集団活動を通じて、規則正しい生活習慣を身につけるプログラムを実施した。

また、野外炊事では、異年齢の班を編成し、仲間作りやコミュニケーションの充実を図るとともに、達成感や自己肯定感を養うプログラム構成とした。

スケジュール

10月19日(土)

- ・開会式
- ・木のコースター作り
- ・選択プログラム(亀山ハイキング、カブラ)
- ・わくわくタイム(バドミントン、卓球、バレーボール、ドッジビー)

10月20日(日)

- ・フィールドアスレチック
- ・野外炊事
- ・閉会式

【1日目】

開会式後、亀山コースと倶留尊山コースに分かれての登山を予定していたが、天候不良のため、屋内で木のコースター作りを行った。子どもたちは、自分の好きなキャラクターや色鮮やかな模様を描くなど、それぞれが思い思いにコースター作りを楽しみ、完成した作品を見て「曽爾の思い出ができた」と喜ぶ姿が見られた。

その後、天気が回復したため、みんなで主体的に話し合ってもらい、コースター作り、カブラ、亀山ハイキングの3つのプログラムに分かれて活動した。

夜は、プレイホールで「わくわくタイム」を行った。

初めに、みんなでどんな活動をしたいか相談した後、バドミントンや卓球、バレーボールの中から活動を選び、それぞれが楽しむ方法を考えて活動した。活動の最後には、施設の職員の方やボランティアも加わり、全員でドッジビーを行った。frisbeeをキャッチしたり当てたりするたびに大きな歓声が上がリ、時間いっぱい楽しむことができた。



【2日目】

初めに、フィールドアスレチックを行った。前日の雨の影響で地面が滑りやすくなっていたが、互いに声をかけながら安全に気を付けて活動することができていた。

小学生は、中高校生に助けってもらいながら、難しいものにもチャレンジするなど、それぞれの発達段階に応じて目いっぱい楽しむことができた。

次に、野外炊事でちゃんこ鍋作りをした。班で役割を分担し、薪割りをしたり野菜を切ったりするなど、みんなで協力しながら調理をした。また、野外炊事の経験がある高校生が中心になって安全に活動できるように小さい子に声をかけながら率先して活動していた。



6. まとめ

子どもたちは、自然の中で約束を守っていきいきと活動することができていた。当日は天候不順のため、活動の変更を余儀なくされたが、その都度みんなで話し合いながらより良い方法を考えて活動することができた。また、普段なかなかできない体験をたくさんすることができ、同じ施設で過ごす子どもたちであっても、新たな一面を発見することができる良い機会となった。

(企画指導専門職 曾和 良友)